

| | |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title | 在宅ワーカーの賃金決定-協働システムのルールとして- |
| Sub Title | |
| Author | 小林寿子(Kobayashi, Hisako) 國領二郎 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1997 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1997年度経営学 第1340号 可能 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1340 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

在宅ワーカーの賃金決定 —協働システムのルールとして—

電子ネットワーク社会において、「時間、空間」にとらわれないワークスタイルが脚光を浴びている。今まで育児、介護などの理由で眠っていた女性労働力がこの働き方の実現で活性化されるとの希望の見解がある。一方で、電子ネットはツールにしか過ぎず不確実性を多分に秘めたこれらの労働力は、労働市場には相容れないとの否定的な意見も根強い。こういった世論を鑑み本論文では外部労働力として、女性を中心とした在宅ワーカーが企業の戦力として如何にすれば協働していけるかの方法論を、その労働の対価である賃金に求める。

問題意識の背景として外部労働力の現状を、公開データや各種機関へのインタビューをもとに明らかにしその課題を導出する。また理論構築として、賃金決定の考慮要件を導き出すために、組織の経済学的アプローチから、エージェンシー理論、報酬制度、人的資源管理などに関して文献研究を行なう。

そして女性を中心とした「外部労働力との協働」として既存の協働システムの事例、現在新たに電子ネットワーク上で起こっている「在宅ワーカーとの協働システム」の事例、これらの研究を対比させながら分析検討する。

少子化、高齢化が進む現在、これからの労働として在宅ワークというスタイルは注目すべきである。ここにおいて緩やかな外部労働とのネットワーク構築への一般化の足がかりとなり得る方向を模索する。